

外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻カリキュラム・マップ(2020年度入学生)

次のような知識や能力を備えた学生に学士(スペイン語 または ブラジルポルトガル語)の学位を授与します。

ディプロマ・ポリシー

- ① 本学の教育理念である「国際性」を身につける(国際性)
- ② スペイン語圏およびポルトガル語圏の文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につける(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識)
- ③ スペイン語力およびブラジルポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学、文学、歴史、社会、教育などの領域について探求することができる(外国語で学問探求)
- ④ 異文化理解を踏まえたスペイン語またはブラジルポルトガル語によるコミュニケーションができる(スペイン語・ブラジルポルトガル語コミュニケーション力)
- ⑤ あらゆる分野でスペイン語またはブラジルポルトガル語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力)
- ⑥ 国際的に通用する高度なスペイン語またはブラジルポルトガル語を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる。(国内外での貢献性)

科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
						①	②	③	④	⑤	⑥
スペイン語A(文法)	演習	1	2	スペイン語の運用能力を高めていくために必要な基礎的文法を学ぶ。	文法構造の基本を英語と比較しながら、直説法現在などの基礎的な学習を中心に進め、それらの用法を習得する。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA1を目指す。	○	◎		○		
スペイン語A(会話)	演習	1	2	スペイン語の基礎的な文型および会話表現を学習する。	スペイン語の文法および単語・表現を学習しながら基礎的な会話力を身につける。簡単な読解・聴解をできるようにする。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA1.1を目指す。	○	○		◎		
スペイン語A(視聴覚)	演習	1	2	スペイン語運用能力の基礎となる基本文法の習熟に対応したコミュニケーション力の養成をはかるとともに、スペイン語圏地域の社会的・文化的特徴を理解し、総合的なスペイン語力を強化する。	複数のDVDを教材中心にししながら、日常生活で使用される基本会話の音読練習を反復する。加えて、CD音声教材を駆使した基本表現の聞き取りや筆記によるトレーニングで文章構成力を涵養するとともに文化の理解をも進める。最終的にヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA1.1を目指す。	○	◎		○		
スペイン語B(文法)	演習	1	2	既習の初級文法を確認したうえで、より高度なスペイン語文法を習得し、文章読解や聞き取り、作文などの練習問題を通して理解を深める。	「スペイン語A(文法)」に続いて、文法構造の基本を英語と比較しながら、再帰動詞や接続法などより高度な文法事項の学習を中心に進め、それらの用法を習得する。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA2を目指す。	○	◎		○		
スペイン語B(会話)	演習	1	2	スペイン語の基礎的な文型および会話表現を学習する。	スペイン語の文法および単語・表現を学習しながら基礎的な会話力を身につける。簡単な読解・聴解をできるようにする。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA1.2を目指す。	○	○		◎		
スペイン語B(視聴覚)	演習	1	2	スペイン語運用能力の基礎となる基本文法の習熟に対応したコミュニケーション力の養成をはかるとともに、スペイン語圏地域の社会的・文化的特徴を理解し、総合的なスペイン語力を強化する。	複数のDVD教材中心にししながら、日常生活で使用される基本会話の音読練習を反復する。加えて、CD音声教材を駆使した基本表現の聞き取りや筆記によるトレーニングで文章構成力を涵養するとともに文化の理解をも進める。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA1.2を目指す。	○	◎		○		
スペイン語C(文法)	演習	2	1	既習の文法事項を再確認しながら、文章読解や聞き取り、作文などの練習問題を通して、中級文法の習得と運用能力のさらなる向上に努める。	「スペイン語B(文法)」に続いて、文法構造の基本を英語と比較しながら、関係詞や命令文、願望文・条件文など、中級レベルの文法事項を習得する。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルB1.1を目指す。	○	◎		○		
スペイン語C(会話)	演習	2	1	1年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させ、現実のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のスペイン語の事情からスペイン語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるように学習する。	会話を中心に進め、1年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA2.1を目指す。	○	○		◎		
スペイン語C(視聴覚)	演習	2	1	1年次で習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を駆使して、スペイン語の長文を聞き取り読みこなす力を身につける。	主にスペイン語圏の世界遺産に関する文章を読み進めていく。スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を習得することも併せて行う。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA2.1を目指す。	○	◎		○		
スペイン語C(表現)	演習	2	1	スペイン語と日本語の両言語の書き言葉の対照に注目する。映像資料とともに、主要文学作品を中心に翻訳の練習を進める。	1年次で学習した基礎語学力の蓄積を前提に、夏目漱石『吾輩は猫である』(1905)の西語訳の検討ならびにスペイン文学の大作『ドン・キホーテ』(1605・15)を対照することで、日本語とスペイン語両言語の特徴ならびに翻訳技術について新たな認識を持ち、言語文化理解に繋げる。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA2.1を目指す。				○	◎	○
スペイン語D(文法)	演習	2	1	既習の文法事項を再確認しながら、文章読解や聞き取り、作文などの練習問題を通して、中級文法の習得と運用能力のさらなる向上に努める。	特定のテーマについて書かれた解説文を教材に、スペイン語の読解力を養うとともに、スペイン語圏に関するさまざまな知識を習得する。またこれまでに学んだ構文・文法事項を定着させ、語彙や表現力の向上を目指す。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルB1.2を目指す。	○	◎		○		
スペイン語D(会話)	演習	2	1	1年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。実際のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。「世界の中のスペイン語」事情からスペイン語世界の情報までを、音声映像を通じて習得・理解できるように学習する。	会話を中心に進め、1年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。ヨーロッパ言語共通参照(CEFR)のレベルA2.2を目指す。	○	○		◎		

科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号						
						①達成のために特に重要 ②達成のために重要						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
次のような知識や能力を備えた学生に学士(スペイン語 または ブラジルポルトガル語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につける(国際性) ②スペイン語圏およびポルトガル語圏の文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につける(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識) ③スペイン語力およびブラジルポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学、文学、歴史、社会、教育などの領域について探求することができる(外国語で学問探求) ④異文化理解を踏まえたスペイン語またはブラジルポルトガル語によるコミュニケーションができる(スペイン語・ブラジルポルトガル語コミュニケーション力) ⑤あらゆる分野でスペイン語またはブラジルポルトガル語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥国際的に通用する高度なスペイン語またはブラジルポルトガル語を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる。(国内外での貢献性)												
スペイン語D(視聴覚)	演習	2	1	1年次で習得した文法知識およびスペイン語圏に関する知識を駆使して、スペイン語の長文を聞き取り読みこなす力を身につける。	主にスペイン語圏の世界遺産に関する文章を読み進めていく。スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を習得することも併せて行う。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.2を目指す。	○	◎		○			
スペイン語D(表現)	演習	2	1	スペイン語と日本語の両言語の書き言葉の対照に注目する。映像資料とともに、主要文学作品を中心に翻訳練習を進める。	1年次で学習した基礎語学力の蓄積を前提に、夏目漱石『吾輩は猫である』(1905)の西語訳の検討ならびにスペイン文学の大作『ドン・キホーテ』(1605・15)を対照することで、日本語とスペイン語両言語の特徴ならびに翻訳技術について新たな認識を持ち、言語文化理解に繋げる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.2を目指す。			○	◎	○		
スペイン語E(文法)	演習	3	1	既習の中級文法の主要な事項を総合復習(ドリル形式)で再確認し、そのうえでさらに高レベルのスペイン語運用力を養う。復習に加え、受講生が関心を持つテーマについても学習する。中・上級程度の講読を通して文法を確認する。	既習の中級文法を活かし、さらに上級レベルの文法を習得する。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2.1を目指す。	○	◎		○			
スペイン語E(会話)	演習	3	1	1・2年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。実際のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。「世界の中のスペイン語」事情からスペイン語の世界の情報までを音声映像を通じて習得・理解できるように学習する。	会話を中心に進め、1・2年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用し、スペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.2を目指す。	○	○		◎			
スペイン語E(視聴覚)	演習	3	1	スペイン語によるニュースや動画を視聴し、ネイティブ話者の話すスピードに慣れ、内容を理解できるように学習する。	ネイティブによるスペイン語のニュースや動画を視聴し、記事の読解も行う。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.1を目指す。	○	◎		○			
スペイン語E(表現)	演習	3	1	1・2年次で学習した内容を踏まえて、スペイン語で自分の考えを表現できるように学習する。	様々な記事や映像を基に、スペイン語の語彙を増やし、表現力を養う。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.1を目指す。					◎		
スペイン語F(文法)	演習	3	1	スペイン語を言語学的に概観し、これまでに学習したスペイン語の要素をいくつか取り上げ、各項目をより深く理解するように学習する。	スペイン語の構造を理解する。理解が曖昧だった文法の知識を確かなものにする。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2.2を目指す。			◎				
スペイン語F(会話)	演習	3	1	1・2年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるように学習する。「世界の中のスペイン語」事情からスペイン語の世界の情報までを音声映像を通じて習得・理解できるように学習する。	会話を中心に進め、1・2年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用し、スペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.2を目指す。	○	○		◎			
スペイン語F(視聴覚)	演習	3	1	スペイン語によるニュースや動画を視聴し、ネイティブ話者の話すスピードや内容を理解できるように学習する。	ネイティブによるスペイン語のニュースや動画を視聴する。記事の読解も行う。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.2を目指す。	○	◎		○			
スペイン語F(表現)	演習	3	1	既習のスペイン語文法を深化させるとともに、小説・短編・新聞・TOPIC・映像作品・マンガ等も含め、様々な題材を介して多様なスペイン語表現の習得・活用を進める。	初級・中級レベルを学習してきた受講生を対象に、『中級スペイン語読み解く文法』を用いて、スペイン語表現の的確な習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.2を目指す。			○	◎	○		
ブラジルポルトガル語A(文法)	演習	1	2	ポルトガル語の運用能力を高めていくために必要な基礎的文法を学ぶ。	文法構造の基本を英語と比較しながら、直説法現在などの基礎的な学習を中心に進め、それらの用法を習得する。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1を目指す。	○	◎	○				
ブラジルポルトガル語A(会話)	演習	1	2	ポルトガル語の基礎的な文型および会話表現を学習する。	ポルトガル語の文法および単語・表現を学習しながら基礎的な会話力を身につける。簡単な読解・聴解をできるようにする。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.1を目指す。	○	○		◎			

科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号						
						①達成のために特に重要 ②達成のために重要						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
次のような知識や能力を備えた学生に学士(スペイン語 または ブラジルポルトガル語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につける(国際性) ②スペイン語圏およびポルトガル語圏の文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につける(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識) ③スペイン語力およびブラジルポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学、文学、歴史、社会、教育などの領域について探求することができる(外国語で学問探求) ④異文化理解を踏まえたスペイン語またはブラジルポルトガル語によるコミュニケーションができる(スペイン語・ブラジルポルトガル語コミュニケーション力) ⑤あらゆる分野でスペイン語またはブラジルポルトガル語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥国際的に通用する高度なスペイン語またはブラジルポルトガル語を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる。(国内外での貢献性)												
ブラジルポルトガル語A(視聴覚)	演習	1	2	独自に開発した映像教材を用いて基礎的な会話表現を学ぶと同時に、ポルトガル語の音声に慣れることによって聞き取る力を養う。映像教材で示されるブラジル独特の身体表現を学ぶことにより、異文化理解とコミュニケーション能力(言語的および非言語的)を身につける。自分自身や家族の事柄、また日常生活に関わる単語と表現を学ぶ。	日常生活に必要な基礎的な表現を聞き取り、発話できるようになる。ブラジル独特の身体表現を用いて基礎的なコミュニケーションができるようになる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.1を目標とする。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語B(文法)	演習	1	2	既習の初級文法を確認したうえで、より高度なポルトガル語文法を習得し、文章読解や聞き取り、作文などの練習問題を通して理解を深める。	既習のポルトガル語文法に続いて、初級レベルの文法学習を進める。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2を目指す。			◎	○	○		
ブラジルポルトガル語B(会話)	演習	1	2	ポルトガル語の基礎的な文型および会話表現を学習する。	ポルトガル語の文法および単語・表現を学習しながら基礎的な会話力を身につける。簡単な読解・聴解をできるようになる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.2を目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語B(視聴覚)	演習	1	2	独自に開発した映像教材を用いて基礎的な会話表現を学ぶと同時に、ポルトガル語の音声に慣れることによって聞き取る力を養う。映像教材で示されるブラジル独特の身体表現を学ぶことにより、異文化理解とコミュニケーション能力(言語的および非言語的)を身につける。自分自身や家族の事柄、また日常生活に関わる単語と表現を学ぶ。	日常生活に必要な基礎的な表現を聞き取り、発話できるようになる。ブラジル独特の身体表現を用いて基礎的なコミュニケーションができるようになる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA1.2を目標とする。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語C(文法)	演習	2	1	ブラジルポルトガル語の中級レベルの文法を習得する。	既習の文法知識を定着させるとともに、中級レベルの文法の習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.1を目標とする。			◎	○	○		
ブラジルポルトガル語C(会話)	演習	2	1	1年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のポルトガル語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界中のポルトガル語の事情からポルトガル語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるように学習する。	会話を中心に進め、1年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してポルトガル語圏の歴史や地理に対する理解を深め、ポルトガル語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.2を目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語C(視聴覚)	演習	2	1	既習の表現法を基礎に、テレビやラジオの実際のニュース、インタビュー番組、討論会などの視聴を重ね、さらに、ブラジルの映画などの視聴を通して受講者がお互いの意見を交換し合える状況を提供する。	ブラジルポルトガル語の基本的な音の体系を理解し、正確な音の習得および聞き取りを目指す。時事ニュース、映画などに用いられる頻出語彙やその用法について知る。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.1を目標とする。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語C(講読)	演習	2	1	ブラジルと日本の社会、歴史、食文化にかんするテキストを読み、それらの領域に関連した語彙や表現を学び文章の読解能力を高めるとともに、それらの側面についてポルトガル語で作文ができるようになることを目指す。具体的な事柄を示す叙述のみならず抽象的な概念が記されたテキストを理解する能力を高める。	身近な話題に限定されることなく、ポルトガル語学習を通じてより専門性の高い学問領域に目を向けることができるようになる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.1を目標とする。	○	○	○	◎			
ブラジルポルトガル語D(文法)	演習	2	1	ブラジルポルトガル語の中級レベルの文法を習得する。	既習の文法知識を定着させるとともに、中級レベルの文法の習得を目指す。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.1を目標とする。			◎	○	○		
ブラジルポルトガル語D(会話)	演習	2	1	1年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。実際のポルトガル語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界中のポルトガル語の事情からポルトガル語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるように学習する。	会話を中心に進め、1年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してポルトガル語圏の歴史や地理に対する理解を深め、ポルトガル語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.2を目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語D(視聴覚)	演習	2	1	テレビやラジオのニュース、インタビュー番組、討論会などの視聴を重ね、さらに、ブラジルの映画などの視聴を通して受講者がお互いの意見を交換し合える状況を提供する。日本語の目上に対する丁寧語や敬語の表現をポルトガル語での表現に置き換える技能法も学習する。	ブラジルのポルトガル語についての基本的な音の体系を理解し、正確な音の習得および聞き取りを目指す。時事ニュース、映画などに用いられる頻出語彙やその用法について知る。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.2を目標とする。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語D(講読)	演習	2	1	ブラジルと日本の社会、歴史、食文化にかんするテキストを読み、それらの領域に関連した語彙や表現を学び文章の読解能力を高めるとともに、それらの側面についてポルトガル語で作文ができるようになることを目指す。具体的な事柄を示す叙述のみならず抽象的な概念が記されたテキストを理解する能力を高める。	身近な話題に限定されることなく、ポルトガル語学習を通じてより専門性の高い学問領域に目を向けることができるようになる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルA2.2を目標とする。	○	○	○	◎			

科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号						
						①達成のために特に重要 ②達成のために重要						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
次のような知識や能力を備えた学生に学士(スペイン語 または ブラジルポルトガル語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につける(国際性) ②スペイン語圏およびポルトガル語圏の文化、文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につける(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識) ③スペイン語力およびブラジルポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学、文学、歴史、社会、教育などの領域について探求することができる(外国語で学問探求) ④異文化理解を踏まえたスペイン語またはブラジルポルトガル語によるコミュニケーションができる(スペイン語・ブラジルポルトガル語コミュニケーション力) ⑤あらゆる分野でスペイン語またはブラジルポルトガル語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥国際的に通用する高度なスペイン語またはブラジルポルトガル語を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる。(国内外での貢献性)												
ブラジルポルトガル語E(文法)	演習	3	1	ブラジルポルトガル語の上級レベルの文法を習得する。	既習のブラジルポルトガル語の文法知識の定着を図るとともに、ヨーロッパポルトガル語の文法知識を身につける。長文読解を通して、文法力、読解力、語彙力といった総合的なポルトガル語の能力を養う。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2.1を目標とする。		◎	○		○		
ブラジルポルトガル語E(会話)	演習	3	1	1・2年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のポルトガル語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のポルトガル語の事情からポルトガル語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるように学習する。	会話を中心に進め、1・2年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してポルトガル語圏の歴史や地理に対する理解を深め、ポルトガル語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.1を目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語E(視聴覚)	演習	3	1	テレビやラジオのニュース、インタビュー番組、討論会などの視聴を重ね、更にはブラジルの映画などの視聴を通して受講者がお互いの意見を交換し合える状況を提供する。更にはブラジル人留学生との交流を行い、シナリオを作成し、学習者自らナレーションや設定された役割を演じ、ネイティブの指導も交え、イントネーションや表現を学ぶ。	ブラジルのニュースや新聞などメディアで用いられているポルトガル語の講義を通じて、さまざまな表現、実用的運用能力を身につける。またその文化的背景への理解も深める。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.1を目標とする。	○	◎		○			
ブラジルポルトガル語E(講読)	演習	3	1	ブラジル独自の表現法・文などの解説、文法上の留意点の説明も必要視されるが、何よりも日本語に置き換える場合の適切な専門用語の文脈の解説も必要となる。特に専門用語の解説に重点を絞り、全体の文脈の中で適切な日本語訳が作成できるように学習する。	2年間に習得したポルトガル語の基礎的な知識を活用し、更に進んだ読解力とブラジルに関する知識の枠を広げる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.1を目標とする。				○	◎	○	
ブラジルポルトガル語F(文法)	演習	3	1	ブラジルポルトガル語の上級レベルを習得する。	1・2年次に習得したブラジルポルトガル語の文法知識の定着を図るとともに、ヨーロッパポルトガル語の文法知識を身につける。長文読解を通して、文法力、読解力、語彙力といった総合的なポルトガル語の能力を養う。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2.2を目標とする。		◎	○	○			
ブラジルポルトガル語F(会話)	演習	3	1	1・2年次で習得したコミュニケーションスキルを定着させる。現実のポルトガル語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のポルトガル語の事情からポルトガル語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるように学習する。	会話を中心に進め、1・2年次に学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してポルトガル語圏の歴史や地理に対する理解を深め、ポルトガル語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.2を目指す。	○	○		◎			
ブラジルポルトガル語F(視聴覚)	演習	3	1	ポルトガル語学習上級者レベルの授業を行う。授業では、学習者が興味を得た音楽やスポーツ、文学や芸術、更には各種学問分野の紹介を行い意見交換・交流を行う。	ブラジルのニュースや新聞などメディアで用いられているポルトガル語の講義を通じて、さまざまな表現、実用的運用能力を身につける。またその文化的背景への理解も深める。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.2を目標とする。		◎		○	○		
ブラジルポルトガル語F(講読)	演習	3	1	ポルトガル語講読上級レベルの授業を行う。学習者はそれぞれの卒業論文(研究)のテーマに添ったポルトガル語資料を準備し、解説を行う。	前半年に習得したポルトガル語の基礎的な知識を活用し、更に進んだ読解力とブラジルに関する知識の枠を広げる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1.2を目指す。				◎	○	○	
実践スペイン語	演習	2・3・4	1	文法・対話・作文の演習を通し、既習の文法や語彙の定着をはかり、実践的で活きた表現力を補強する。自分の意見や感想等を表現できるよう練習を重ねる。	既に習得した内容を強化し、総合的なスペイン語運用能力を高めることを目指す。					○	◎	○
伝道スペイン語1	演習	2・3・4	1	天理教教理を体系的に理解したうえで、スペイン語話者に対して教理を正しく伝えるための知識と語学力を習得する。	スペイン語に翻訳された天理教紹介パンフレットや教義書をテキストに用いて、基本的な教語や表現を学ぶ。また、スペイン語圏における宗教文化の特質や天理教伝道の歴史や現状についても学習し、さまざまな問題を考察する力を養う。	○				○	◎	
伝道スペイン語2	演習	2・3・4	1	天理教教理を体系的に理解したうえで、スペイン語話者に対して教理を正しく伝えるための知識と語学力を習得する。	スペイン語に翻訳された天理教紹介パンフレットや教義書をテキストに用いて、基本的な教語や表現を学ぶ。また、スペイン語圏における宗教文化の特質や天理教伝道の歴史や現状についても学習し、さまざまな問題を考察する力を養う。	○				○	◎	
翻訳・通訳スペイン語1	演習	3・4	1	翻訳・通訳は単なる言葉の置き換え作業ではなく、文法や語彙・表現力、リスニング能力、関連知識などが求められる総合的に創造的なコミュニケーション能力であることを認識した上で、これまで習得したスペイン語の知識を土台に、翻訳や逐次通訳の実践練習を重ねる。	翻訳・通訳についての基礎知識を学んだあと、さまざまなジャンルの翻訳演習を通して、語彙力や表現力の向上につとめる。また実際に日常生活で遭遇する通訳の場面を想定して、西日・日西両方向の通訳練習をおこなう。翻訳や逐次通訳の基本技術を習得することを目指す。	○				◎	○	

科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号						
						○達成のために特に重要 ○達成のために重要						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
次のような知識や能力を備えた学生に学士(スペイン語 または ブラジルポルトガル語)の学位を授与します。 ① 本学の教育理念である「国際性」を身につける(国際性) ② スペイン語圏およびポルトガル語圏の文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につける(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識) ③ スペイン語力およびブラジルポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学、文学、歴史、社会、教育などの領域について探求することができる(外国語で学問探求) ④ 異文化理解を踏まえたスペイン語またはブラジルポルトガル語によるコミュニケーションができる(スペイン語・ブラジルポルトガル語コミュニケーション力) ⑤ あらゆる分野でスペイン語またはブラジルポルトガル語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥ 国際的に通用する高度なスペイン語またはブラジルポルトガル語を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる。(国内外での貢献性)												
翻訳・通訳スペイン語2	演習	3・4	1	翻訳・通訳は単なる言葉の置き換え作業ではなく、文法や語彙・表現力、リスニング能力、関連知識などが求められる総合的で創造的なコミュニケーション能力であることを認識した上で、これまで習得したスペイン語の知識を土台に、翻訳や逐次通訳の実践練習を重ねる。	翻訳・通訳についての基礎知識を学んだあと、さまざまなジャンルの翻訳演習を通して、語彙力や表現力の向上につとめる。また実際に日常生活で遭遇する通訳の場面を想定して、西日・日西両方向の通訳練習をおこない、翻訳や逐次通訳の基本技術を習得することを目指す。	○					○	
スペイン語応用会話	演習	3・4	1	既習のコミュニケーションスキルを定着させる。現実のスペイン語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取る。世界の中のスペイン語の事情からスペイン語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解する。	会話を中心に進め、今まで学習した文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してスペイン語圏の歴史や地理に対する理解を深め、スペイン語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○			○	◎		
総合スペイン語	演習	3・4	1	様々なジャンルの会話文や読み物を通して、スペイン語の語学力を総合的に強化する。初級で学んだ動詞のなかでもhacer, poner, quedarをはじめとする多義語が、日常表現において様々な表現を可能にすることを学ぶ。	リスニングの能力を養う。シャドーイングを根気よく続けることで、ナチュラルスピードでのスペイン語に慣れる。同時に様々な日常表現を習得する。			○	◎	○		
実践ブラジルポルトガル語	演習	2・3・4	1	文法・対話・作文の演習を通じ、既習の文法や語彙の定着をはかり、実践的で活きた表現力を補強する。自分の意見や感想等を表現できるように練習を重ねる。	既に習得した内容を強化し、総合的なブラジルポルトガル語運用能力を高めることを目指す。				○	◎	○	
伝道ブラジルポルトガル語1	演習	2・3・4	1	天理教教理を体系的に理解したうえで、ポルトガル語話者に対して教理を正しく伝えるための知識と語学力を習得する。	ポルトガル語に翻訳された天理教紹介パンフレットや教義書をテキストに用いて、基本的な教義や表現を学ぶ。また、ポルトガル語圏における宗教文化の特質や天理教伝道の歴史や現状についても学習し、さまざまな問題を考察する力を養う。	○			○		◎	
伝道ブラジルポルトガル語2	演習	2・3・4	1	天理教教理を体系的に理解したうえで、ポルトガル語話者に対して教理を正しく伝えるための知識と語学力を習得する。	ポルトガル語に翻訳された天理教紹介パンフレットや教義書をテキストに用いて、基本的な教義や表現を学ぶ。また、ポルトガル語圏における宗教文化の特質や天理教伝道の歴史や現状についても学習し、さまざまな問題を考察する力を養う。	○			○		◎	
翻訳・通訳ブラジルポルトガル語1	演習	3・4	1	翻訳・通訳の理論を学び、実践的なトレーニングを行なう。	日本語からポルトガル語、ポルトガル語から日本語の双方方向での通訳・翻訳を対象とし、多様な実践的教材を使用し、通訳・翻訳のトレーニングを行う。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2.1を目指す。	○				◎	○	
翻訳・通訳ブラジルポルトガル語2	演習	3・4	1	翻訳・通訳の理論を学び、実践的なトレーニングを行なう。	日本語からポルトガル語、ポルトガル語から日本語の双方方向での通訳・翻訳を対象とし、多様な実践的教材を使用し、通訳・翻訳のトレーニングを行う。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2.2を目指す。	○				◎	○	
ブラジルポルトガル語応用会話	演習	3・4	1	既習のコミュニケーションスキルを定着させる。現実のポルトガル語(音声・映像)から、必要な情報を聞き取ることができるようになる。世界の中のポルトガル語の事情からポルトガル語の世界の情報までを現場の音声映像を通じて習得・理解できるように学習する。	会話を中心に進め、既習の文法事項の確認と練習も行う。視聴覚資料を利用してポルトガル語圏の歴史や地理に対する理解を深め、ポルトガル語の聞き取りや発話能力の向上も試みる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB2を目指す。	○			○	◎		
総合ブラジルポルトガル語	演習	3・4	1	ブラジルとポルトガルの映像資料を用いて聞き取り能力を高めるのみならず、抽象度の高い表現を身につける。	ラジオやテレビ番組で報道される時事問題の説明の要点が理解できるようになる。ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)のレベルB1を目標とする。			○	○	◎		
イペロアメリカ語学概論1	講義	2・3・4	2	スペイン語を共時的、通時的に学び、系統と成り立ちについて基本的な知識を身につける。スペイン国内で話されている様々な言語、世界でスペイン語を母国語とする国々のことばについて概観する。	スペイン語史を通じて、スペイン語の音韻面、形態面、統語・意味面、語彙などの移り変わりを学ぶ。スペインの各地域のことば、ラテンアメリカのスペイン語について、音学的、統語的、意味的、形態的に考察する。アメリカ合衆国におけるスペイン語の重要性を政治的、経済的側面から考察する。スペイン語学の専門的な知識を身につけることを目標とする。			◎		○	○	
イペロアメリカ語学概論2	講義	2・3・4	2	ポルトガル語の系統とその成立について知る。またポルトガル語圏のうち、ブラジルのポルトガル語、ヨーロッパのポルトガル語を中心に、その言語的特徴、方言や社会的なバリエーションなどポルトガル語の多様性を理解する。	ポルトガル語の系統およびその成立と、ポルトガル語の二大バリエーションであるヨーロッパのポルトガル語およびブラジルのポルトガル語の特徴を音学的、統語的、意味的側面から概観する。また、社会の多様性といった状況も幅広く概観する。ポルトガル語学の専門的な知識を身につけることを目標とする。			◎		○	○	

科 目 名	授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号							
						③達成のために特に重要 ④達成のために重要							
						①	②	③	④	⑤	⑥		
次のような知識や能力を備えた学生に学士(スペイン語 または ブラジルポルトガル語)の学位を授与します。 ①本学の教育理念である「国際性」を身につける(国際性) ②スペイン語圏およびポルトガル語圏の文化、コミュニケーション、歴史、習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力を身につける(スペイン語圏・ポルトガル語圏の見識) ③スペイン語力およびブラジルポルトガル語力を礎に専門性の高い学問を語学、文学、歴史、社会、教育などの領域について探求することができる(外国語で学問探求) ④異文化理解を踏まえたスペイン語またはブラジルポルトガル語によるコミュニケーションができる(スペイン語・ブラジルポルトガル語コミュニケーション力) ⑤あらゆる分野でスペイン語またはブラジルポルトガル語を用いて活躍することができる(仕事で通用する語学力) ⑥国際的に通用する高度なスペイン語またはブラジルポルトガル語を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献することができる。(国内外での貢献性)													
イペロアメリカ文学概論1	講義	2・3・4	2	スペイン語圏の言語文化を表象するスペインおよびラテンアメリカ地域の主要文学作品を紹介するとともに、文学作品の解釈を通して、同語圏社会の理解に繋げる。	スペイン語圏の言語文化を表象するスペインおよびラテンアメリカ地域の代表的な文学作品『エル・シンド』や『ドン・キホーテ』からロルカやマルケス、カルロス・フエンテスまで)および関連の映画作品を紹介するとともに、テキスト解釈を行う。スペイン語圏文学作品の独自視点の考察が可能になることを目指す。	○	○	◎					
イペロアメリカ文学概論2	講義	2・3・4	2	ポルトガル語圏におけるイペロアメリカ文学の流れを理解する。実際の文学作品を読み、その魅力に触れることに力点を置く。	ポルトガル語圏に属するイペロアメリカの主だった国の文学を通時的に捉え、邦訳された作品を中心に鑑賞し、文学の背景にあるそれぞれの国の文化的独自性について考察する。ポルトガル語圏文学作品の独自視点の考察が可能になることを目指す。	○	○	◎					
イペロアメリカ社会文化概論1	講義	2・3・4	2	イペロアメリカ社会はどのような社会なのか、それを知ることがこの授業の目的である。そのために、まず、イペロアメリカ社会に関する基本的な情報を得る。その上で、現代のイペロアメリカ社会が抱える諸問題を理解するように学習する。	現代のイペロアメリカ社会は、どのような歴史の積み重ねの結果なのか、そして、それは、どのような特徴を持つ社会なのか、さらに、現代のイペロアメリカはどのような社会問題を抱えているのか、そのような問題が生じる歴史的背景と要因は何なのか、これら基本的な事柄に絞って、「イペロアメリカ社会文化入門」の授業として学習することを目標とする。	○		◎			○		
イペロアメリカ社会文化概論2	講義	2・3・4	2	イペロアメリカ社会・文化に関する基本的な情報を得る。とくに、ブラジルの社会・文化に焦点を当て、基本的な情報をもとに現代ブラジルが抱える諸問題を考察する。	現代ブラジルの社会・文化の状況を理解するために、ブラジルの基本的な情報、とくに、歴史と社会の成り立ち、文化の成り立ちを知り理解する。「ブラジル社会文化入門」の授業として学習することを目標とする。	○		◎			○		
スペイン語圏史	講義	2・3・4	2	各時代・地域の特徴的な歴史事象に焦点を当てながら、スペインからラテンアメリカに至る広大で多様なスペイン語圏の歴史を理解する。	古代から現代に至るスペインならびにラテンアメリカの通史を俯瞰することにより、同地域の歴史の流れを理解し、基礎的な知識を習得する。また現在の諸問題について歴史的な視点から考察できる能力を身につける。	◎	○	○					
ポルトガル語圏史	講義	2・3・4	2	ポルトガルからアフリカ、ラテンアメリカに至るポルトガル語圏地域の歴史を概観する。とくに、ブラジルの歴史に焦点を当てる。	古代の先住民の歴史から「大航海時代」を経て、植民地時代、独立後、近代といったブラジルの歴史を概観する。「ブラジル史入門」としての授業を目標とする。	◎	○	○					
スペイン語圏入門	講義	1	2	スペイン語圏の地理と歴史を学ぶとともに、スペインおよびラテンアメリカ地域の社会的・経済的・文化的意味を確認する。	スペイン語はどのような言語であるのかを解説する。英語や他のヨーロッパ言語との比較を通してラテン言語の特徴を理解し、その背景にある文化的・歴史の意味合いを理解できるようにする。	◎		○			○		
ブラジルポルトガル語圏入門	講義	1	2	ブラジルポルトガル語圏の地理と歴史を学ぶとともに、今日のブラジルはどのような社会的・経済的・文化的意味を持っているのかを確認する。	ブラジルの基本的な情報を知り、現代ブラジルの社会と文化の基本を理解する。	◎		○			○		
イペロアメリカ演習1	演習	3	2					○			◎	○	
イペロアメリカ演習2	演習	3	2	専攻語の語学、文学、歴史、社会、文化の知識を深めながら、学生が主体となって関心のある分野を研究する。その成果を「卒業課題研究」または「卒業論文」につなげる。	自主的な調査研究を通して、プレゼンテーションや議論できるようになる。最終的に関心のあるテーマについて独自の意見を形成し、論文のルールに従って表現できるようになる。		○				◎	○	
イペロアメリカ演習3	演習	4	2				○				◎	○	
イペロアメリカ演習4	演習	4	2								◎	○	
イペロアメリカ海外語学実習	実習	2・3	4	スペイン語またはブラジルポルトガル語の語学力を活かし、現地でのコミュニケーション力向上を目指すだけでなく、現地の社会や文化についても学ぶ。ホームステイを通して現地の生活を体験する。	外国語の集中講義を受け、午後や週末は大学やホームステイ先が準備する行事・活動に参加することで、イマージョン教育により最終的に生きた言葉・文化を習得することを目指す。	○			○			◎	
卒業課題研究			4	2	学生が関心を持つ事柄についてテーマを設定し研究する。テーマについて詳しく調べ研究としてまとめる。	1.先行研究に関する文献調査ができる。2.テーマに関するフィールド・アンケート調査ができる。3.独自の意見を形成できる。4.研究の成果を研究業績としてまとめることができる。			○			○	◎
卒業論文			4	4	関心のある対象・テーマに関して、先行研究を踏まえながら、独自の意見を形成し、説得的かつ論理的な論文を執筆する能力を養成する。	1.先行研究に関する文献調査ができる。2.テーマに関するフィールド・アンケート調査ができる。3.独自の意見を形成できる。4.意見を論文のルールに従って表現できる。			○				◎